

# 天文学的側面から見る絵画の正確性 「星月夜」

今西 音寧、鈴木 結琳（高2）【大阪府立北野高等学校】

## 0 概要

私たちは、絵画における天体の方角位置関係の正確性を検証するため、ムンクが描いた「星月夜」(図1)について研究した。この絵の星は正確に描かれたと仮定し、ステラナビゲータを用いて検証した結果、空の様子は正しいとわかった。

## 1 背景

まず、この絵の描かれた背景を調べた。1923年～1924年に、ノルウェーのオースゴールストランで描かれたと言われている。ムンクはこの場所をとっても気に入っていたため、一般的には、この絵は写実的というよりも、夜に呼び覚まされた感情を主として描いたと考えられている。

(引用：

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%89%E3%83%B4%E3%82%A1%E3%83%AB%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%A0%E3%83%B3%E3%82%AF>

[https://en.wikipedia.org/wiki/Starry\\_Night\\_\(Munch\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Starry_Night_(Munch))

<https://www.musey.net/5770>

<https://4travel.jp/travelogue/10724169>

<https://www.artpedia.jp/edvard-munch/>)



図1 星月夜

## 2 仮説

私たちは、ムンクが感情のままに絵を描いたのではなく、実際に空を見て描いたと仮定した。そこで、星座早見盤を使って似た形の星座を探したところ、冠座と牛飼い座の一部と似ていた。また、絵に海らしき風景が描かれていたため、地図を用いて海の方角を確認した。その結果、おおよそ北から西を見ながら描いたと予想した。

## 3 検証方法

緯度、経度、時刻を設定すると、その当時の空や星の様子がわかる「ステラナビゲータ」というソフトを使い、当時の空には、どの方角にどのような星座が見られるか確認した。

## 4 結果

1924年8月下旬の午前3時30分ごろ、北北西に冠座と牛飼い座の一部が確認できた。また、空の地平線辺りが明るいことも、絵画と一致していた。

## 5 考察

絵画全体は、曖昧な描写やぼんやりと描かれた部分が多い。しかし、星の位置は正確であるため、実際に見た景色を思い出して描いたと考えられる。また、夜空の地平線あたりが明るい理由は、ノルウェーが高緯度に位置し、時期が夏であることから、白夜であると考えた。